

NEWSポストセブンのアプリ、はじめました



- TOP
- 国内
- ビジネス
- 芸能
- スポーツ
- ライフ
- 国際情報
- コラム
- 特集
- グラビア
- 連載・シリーズ
- マネー

TOP > 芸能 > セーラー服の歌人鳥居 虐待を受けた壮絶の半生を語る

芸能

最新芸能記事のRSS

セーラー服の歌人鳥居 虐待を受けた壮絶の半生を語る

2016.04.04 16:00



東国原氏のTwitterで紹介された育毛...
東国原氏のTwitterで紹介された育毛剤がすごい件。

[PR]



【短歌を独学で学んだセーラー服の歌人・鳥居】



《目を伏せて空へのびゆく麒麟の子 月の光はかあさんのいる》

《慰めに「勉強など」と人は言う その勉強がしたかったのです》

《心とはどこにあるかも知らぬまま名前をもらう「心的外傷」》

2才で両親が離婚。小学5年生の時に母親が目の前で自殺。入所した養護施設でいじめや虐待に遭い不登校に。施設を出て祖母や血のつながりのない人の家を転々とするも、その後ホームレスに。そんな何もかも嫌になってしまったある日、彼女は図書館で短歌に出合った。学校にも行かず、ろくに読み書きもできない。しかし、拾った新聞を辞書でひきながら読んで字を覚えてきた彼女は、短歌もほぼ独学で必死に学んだ。今では彼女の生きる光明となっている。

最近、新聞やテレビでクローズアップされている“彼女”は、鳥居。自身の半生が綴られた伝記『セーラー服の歌人 鳥居』と、自身初の歌集『麒麟の子』（ともにKADOKAWA アスキー・メディアワークス）が発売され、先日は『クローズアップ現代』（NHK）の最終回にも登場した。

女性セブンのインタビューに、鳥居はいつものセーラー服姿で現れた。

「小学校の途中で通学できなくなってしまった学校に行き、“もう一度学び直したい”と願う一方で、同じように学校へ行きたくても行けない子がいることの実現でもあるんですよ」（鳥居、以下「」内同）

その壮絶な半生から、暗く薄幸な女性像を勝手に想像していたが、実際は、大きな瞳をキョロキョロと動かしながらよく笑って、よく話してくれた。

「私の家族は虐待の家族でした。祖母が母に、母が私に、と。でも私は、祖母も母も恨んでいないんです。それぞれ一生懸命に生きたし、上手に子育てをしたかったし、最初から悪い人ではなかった。私は今でも家族が大好きです。この本を読んで、“この人は悪者”と簡単に切り捨てるのではなく、どうしてそうなってしまったのか、とか、家族を見つめ直すきっかけになればいいなと思います」

苦しくとも過去の体験を思い出しながら、短歌を紡ぐ鳥居。制作途中に倒れたり、その後高熱を出して寝込んでしまうこともある。それでも彼女は、今日も歌を詠む。



エディターズチョイス

- ドクターXモデル 奇跡の
- 木村拓哉長女 EXILEを引
- 成宮寛貴 引退決意の最
- セレブ産院 中絶後死亡
- 木村拓哉長女 仏音楽界?
- 成宮寛貴 引退文書の矛
- ウルトラマン「中の人」
- 千葉大強姦 華麗なる法
- 愛子さま ご学友の声で
- 成宮「相棒」の頃から異

連載・シリーズ

高須克弥
「ビジネス新大陸」

山田美保子
「芸能界の道中」

話題の本
BOOK WONDERLAND

NEWS
ポスト
まとめ

